

# DX推進指標を理解し、顧客に提案しよう

DX推進指標WG

# 目次

---

## 1 DX推進指標WGについて

- ▶ 発足の背景・目的
- ▶ 活動メンバー

## 2 WGの成果

- ▶ DX推進指標とは
- ▶ 成果
- ▶ 活動内容

## 3 まとめ

- ▶ DX推進指標の活用

# DX推進指標WGについて

2019年7月にDX推進指標が経済産業省様より公開

## 問題意識



- ▶ 企業に浸透する気配が薄い
- ▶ ベンダが顧客に提案できていない

## 発足の目的



- ✓ ベンダの立場として理解を深める
- ✓ 顧客に提案したい

活動参加者：26名

公開資料では参加者名簿部分を非公開とさせていただきます。

# WGの成果

- ✓ DXを巡る課題が指標
- ✓ 経営層以下関係者が課題、アクション、進捗を共有
- ✓ 気づきの機会を提供するツール

戦略、組織、人材、ガバナンスなど指標項目は多岐に渡る



一見すると良く分からない。なぜこれがDX？  
この実現にどんな意味があるの？となる

## DX推進指標における「DX」定義

企業が**ビジネス環境の激しい変化に対応**し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、**製品やサービス、ビジネスモデルを変革**するとともに、**業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革**し、競争上の優位性を確立すること

翻訳すると

- ✓ **レガシーなIT基盤の見直し**
- ✓ **デジタルなプロダクトを活用した市場競争力の確立**
- ✓ **デジタルなプロダクトを作るための、デジタル組織への変革**

日本特有の事象

- ▶ システムの経年メンテによる肥大化・複雑化
- ▶ 事業単位の個別最適化
- ▶ 技術老朽化
- ▶ 事業会社内のIT人材不足（デジタル戦略の不在）



- ✓ 既存システムの調査メンテにIT予算の大半を消費
- ✓ 全社最適に向けたデータ利活用が困難



**DXの前に「SoR」必要なものを正しく作る必要がある**

イノベーションと言われる部分のDX

- ▶ UberやYouTube、登場の前には説明できない市場の構築
- ▶ データやデジタル技術を使って、顧客視点で新たな価値
- ▶ ビジネスモデルの変革



- ✓ ディスラプトなプロダクトが何かは事前には分からない
- ✓ 目標にはできない



しかし作り方は分かる

- ✓ イノベーションには方法論がある。理論化されている。
- ✓ シリコンバレーにはディシプリン（規律）がある



※itpro シリコンバレーは「何が」凄いのか  
<https://www.slideshare.net/atnakada/ss-80520040>

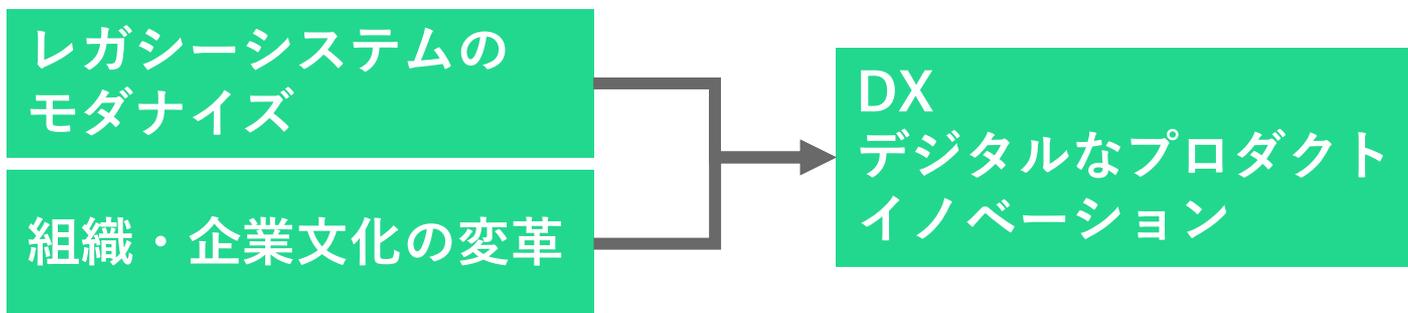
方法論に沿った組織を作ってイノベーションを目指す

- ✓ DXを巡る課題が指標
- ✓ 経営層以下関係者が課題、アクション、進捗を共有
- ✓ 気づきの機会を提供するツール



- ✓ 日本特有の問題を解消してSoRを正しく行う
- ✓ 方法論に従い組織・企業文化を変革してイノベーションを目指す

DX推進指標はDX実現の準備のための指標



## ■DXおよびDX推進指標の理解

- ▶ 前述のDX、DX推進指標の意味
- ▶ 顧客へ提案するための前提となる考え方整理

## ■成果物

- ▶ DX推進指標による自己診断の補助資料
- ▶ 用語の説明や留意点を追加

## 補助資料の内容

#	内容	補助内容
1	DX推進指標 クエスチョン	DX推進指標より転記。問われてる内容。
2	ガイダンス	DX推進指標とそのガイダンスより転記。
3	用語意味	WGで作成。
4	解説	WGで作成。質問の理解が難しい場合に、分かりやすい形での翻訳や、成熟度判定での考え方を纏めている。
5	エビデンス 確認内容	WGで作成。ガイダンスに示された文書から、何を確認すべきかを記載。
6	成熟度判定 補足	WGで作成。成熟度を判定する際の目安について、必要に応じ例などを示している。

## 補助資料イメージ

No.	定性指標	DX推進指標	定量	ガイダンス	解説・翻訳	成熟度	DX推進指標における成熟度	成熟度レベル判定の目安 判断基準の補足
5	4-1	体制	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●趣旨                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・挑戦を促し、失敗から学ぶプロセスをスピーディーに実行するためには、小さくプロジェクトを動かすことが有効である。例えば、単位を小さくし、いつでも方向転換できるようなExitの条件を用意しておくことである。トライ＆エラーでダメなら次にいけばよいという文化を根付かせ、それをスピーディーに実施していくことが重要であり、それに適した体制とすることが必要である。</li> <li>・また、何階層もある決裁ルートでの待ち時間は致命的であり、現在の組織、ルールでは回らない可能性がある。適切な権限委譲を行うことで、小さくスピーディーに実行することが重要となる。</li> </ul> </li> <li>●留意点                             <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい仕組みを導入する際は、既存事業とのバランスが最大の課題となる。組織の縦割りの壁、ケイパビリティの違い（既存ITとデジタル、アジャイルとウォーターフォール等の違いなど）の克服が必要である。</li> </ul> </li> <li>●成熟度判定のエビデンスの例                             <ul style="list-style-type: none"> <li>中期経営計画、事業計画、業績評価KPI、組織図・体制図、職務分掌</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●用語                             <ul style="list-style-type: none"> <li>- ケイパビリティ：                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>企業が全体として持つ組織的な能力。あるいは、その企業が得意とする組織的な能力。</li> </ul> </li> <li>- Exit：                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>収穫、利益を得ること。例えばベンチャービジネスや企業再生などにおいて、創業者やファンド（ベンチャーキャピタルや再生ファンドなど）が株式を売却し、利益を手にする事。</li> </ul> </li> <li>- 既存ITとデジタル：                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>ITは組織の管理や仕事の効率化を図るツール、デジタルはユーザー起点にビジネスを変えるあるいは創造するツールと呼ばれる</li> </ul> </li> <li>- アジャイル：                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>迅速かつ適応的にソフトウェア開発を行う軽量な開発手法の総称</li> </ul> </li> <li>- ウォーターフォール：                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>開発プロジェクトを時系列で作業工程（局面、フェーズ）毎に分割する開発手法</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>●解説・翻訳                             <ul style="list-style-type: none"> <li>DXのプロジェクト推進では仮説を検証してより価値を創出できる方向へと、方向転換を繰り返すことが重要である、また繰り返しの迅速な試行を行うため既存事業と比較し、意思決定はスピード感を伴うことが必要となる。既存の組織の仕組みでは対応できない場合があるため、適切なDX推進のための体制と権限移譲が必要となる。</li> </ul> </li> <li>●エビデンスの確認内容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・DXプロジェクトの迅速な意思決定を可能とする体制と権限移譲</li> <li>・体制や権限の見直しの仕組み</li> </ul> </li> </ul>	0	構築できていない。	
						1	一部の部門で体制を構築しているが、試行的である、あるいは十分に権限委譲できていない。	既存事業の仕組みの中でDX推進を行っている。
						2	一部の部門で体制を構築し、権限移譲を伴って、実践している。	
						3	全社的に関連部門に権限委譲を伴って体制が構築され、全社で部門横断的な実践がなされている。	
						4	必要に応じて、体制や移譲される権限の見直しが行われる仕組みができており、全社で持続的なものとして定着している。	
						5	構築された体制による取組が、グローバル競争を勝ち抜くレベルとなっており、定着している。	

DX推進指標等からの転記  WGで作成した内容

## 会議開催

開催月	開催方式
1~2月	集合会議
3月	コロナ影響でメールによる情報交換
4~12月	リモート会議

- ✓ 途中から参画で顔を合わせていない方もいる
- ✓ 今回WG初参加の方も多数 (15/26名)
- ✓ DXレポート等、大半の方が読んでいない  
状態からのスタート

1 DX推進指標を使ってみる（各社自己評価）



2 DX推進指標の理解を深める



3 DXを推進する具体的な提案が見つかる



4 ITA各社で使える営業ツールを準備できないか

自分たちが使ってみて

- ▶ ガイダンスが良く分からない(DXに関する理解不足)
- ▶ 入力できないことがない(現状未対応・未検討の内容が多い)



そもそも診断が難しい

顧客に何か提案できるか？

- ▶ 推進指標が何を言っているか分からないだろう
- ▶ 推進指標を理解するところから支援が必要では



DX推進指標の理解を深めるガイドを用意しよう

## 議論のスピード低下

- ▶ 集合会議の後の懇親会がない  
→ 相互理解、意見交換の機会が減少
- ▶ 表情による意思疎通の減少



## 会議の進め方に工夫が必要

対応案（深い検討ではなく叩き、次年度への課題）

- ▶ グラフィックレコーディングのような可視化による意識合わせ
- ▶ 均等な発言機会の設定
- ▶ 会議後のフィードバック

# まとめ

## ■ DX認定制度

DX推進指標が課題把握の申請項目として活用



活用の増加が見込まれる

## ■ 本成果を利用したのDX認定の支援

- ✓ DXとは、DX推進指標とは何か、価値の説明
- ✓ 成果物補助資料を活用した、診断の支援



顧客へのDX推進に役立つことを期待

# DX推進指標を理解し、顧客に提案しよう

DX推進指標WG